



小林当織物株式会社

多種多様なデザイン、素材も異なる色とりどりの服地サンプルが整然と保管、展示されている小林当織物(株) (小林雅子社長) の資料室。六十年以上積み重ねてきた同社の歴史と同様、今まで蓄積されたハンガーサンプルは数万点に上る。「数えたことはないが、創立当時のものまで含めればとにかく膨大な量になります」と話す小林社長。資料室には生地サンプルのほか織製造の設計図とも言ふべき注文台帳や柄台帳などの資料も大切に保存されている。

同社の沿革は、大正9年(1920)に小林當次郎氏が本町三丁目黒朱子の製造販売を開始。昭和22年(1947)に新工場を仲町の現在地に新設し、婦人服地の生産を開始した。同25年(1950)、小林当織物株式会社に改組し、小林松氏が社長に就任。同31年(1956)に事務所と工場を新設、同62年(1987)には商品開発センターを新設しコンピューターデザインシステムやレピア織機を設置するなど同社の基礎を築いた。平成5年(1993)にノコギリ屋根だったジャカード工場を建替え、同8年(1996)、小林記一郎氏が社長に就任すると大口のコンピュータージャカード織機を導入し社業を伸展させた。平成20年(2008)に記一郎氏が急逝、妻の雅子氏がその遺志を継ぎ、新しい織機を次々に導入、現在ではエアージェット織機や電子ジャカード織機など28台がフル稼働している。「この業界は、興味を持って好きにならなければやれない仕事」という小林社長の言葉通り、社内では多くの若い従業員が目を輝かせて働いている。

前述の資料室は、平成6年(1994)に敷地内の社員寮を商談のための展示室に改築したものの。そこに保存、展示されている生地サンプルの一点一点からは当時の流行や時代の変遷が伝わってくる。アパレル関係の企業や大手百貨店、服飾・デザイン学校などからの見学も受け入れている。

同社の優れた加工技術により織り出された服地は世界的ブランドのデザイナーからも注目されている。

資料室の膨大な生地サンプル
時代の流行と変遷を映す

- 場所／桐生市仲町1丁目4番29号
- 電話／0277-44-7135